

# 地域情報化推進のための人的体制整備について

平成19年2月19日

情報通信政策局

# 地域情報化人材に関する構成員からの問題提起（整理）

## ○坪田構成員の問題提起：

- ・ベストプラクティスを集積・研究・分析し、鍛えられた若者を現場に投入する  
→地域情報化の情報ハブ&人材育成センターの必要性

## ○永吉構成員の問題提起：

- ・地域情報化の推進体制が脆弱・非効率  
→ 複数の組織はあるが、互いの連携が弱い。専任の人物は殆どいない。
- ・自立した地場ベンダーが少ない → 自治体も大手ベンダーへの依存度が高い。
- ・「官」や「民」の立場を超えた「公」的意識が弱い → 互いにもう一歩ずつ歩み寄る必要がある。

## ○会田構成員の問題提起：

- ・受け皿となる人材集積が地域活力の源泉
- ・ICTスキル及び挑戦意欲の高いシニアを核にいかにより多くの地域応援団シニアを集積するかが課題

## ○近藤構成員の問題提起：

- ・行政と連携する町内会等の自主防災組織や市民サークルが、ネットを活用して簡単に情報発信しやすい環境を政府と民間とでつくり、平時はそれぞれの地域活動で育児・介護支援ネットとして利用できるようなしておけば、大規模災害時の情報伝達の強力な基盤になる。



地域情報化を担う人材の存在が不可欠

# これまでの地域情報化人材の育成に関する取組

## ・ 情報通信人材研修事業支援制度（総務省）

情報通信人材研修事業を行う事業者（第三セクター、公益法人、NPO法人、社会福祉法人等）に対し所要経費の一部を助成することにより、世界最高水準のICT国家の実現に向け情報通信分野における専門的な知識・技能を有する創造的な人材を育成。

## ・ 自治体CIO研修（総務省）

自治体全体の視点からITガバナンスを行う能力を養成するため、自治体におけるシステム設計、システム運用管理、プロジェクトマネジメント等に関する研修教材を開発し、研修を実施。

## ・ 地域情報化アドバイザー制度（財団法人全国地域情報化推進協会）

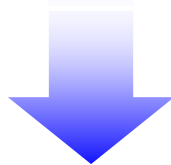
地域情報化に関するアドバイスを必要とする団体等に対して、または地域情報化に関するセミナー等において効果的な助言・啓発を行うことが可能な有識者を地域情報化アドバイザーとして登録／紹介し、セミナー等の実現を支援することにより地域情報化の促進に寄与。

## ・ ITコーディネータ（NPO法人ITコーディネータ協会）

経営者の立場に立って経営とITを橋渡しし、真に経営に役立つIT投資を推進・支援するプロフェッショナルを育成・認定。

# 地域情報化を担う人材の類型と問題点

人材の類型	長所	短所
①地方公共団体の職員	地域に根ざした活動を行うことができる。	地域を越えた活動が難しい。 (ベストプラクティスの伝播ができない)
②大手システムメーカー等社員	情報通信システムに対して専門的な知識を有する。	独立性・中立性に難点がある。
③NPO、ボランティア	人的なつながりによって情報化を推進できる。 地域の事情に応じたきめ細やかな対応をすることができる。	都市部などの人口が多い地域に集中する傾向がある。 後継者養成等の人材の育成が難しい。
④学識経験者	情報通信システムに対して専門的な知識を有する。 地域情報化について広く知見を有する。	研究活動等により時間的な制約が多く、地域情報化に特化した活動が難しい。



**既存の人材を活用するだけでなく、  
新たな「地域情報化」のための人材を養成していくことが必要ではないか？**

# 求められる地域情報化人材像（視点）

## ○「官」と「民」の立場を超えた「公」の立場からの「コーディネーター的役割」を果たす人材

公平性と長期的な視野を持ち、「公」の利益を最大限生かせるような体制の仕掛けをつくることのできるような人材

## ○複数の地域を渡り歩き、地域情報化のベストプラクティスを伝播する「伝道師的役割」を果たす人材

複数の地域に対して、各地域で行われている先進的な地域情報化の事例を収集し、それを活かすような仕掛けをつくることのできるような人材

## ○町内会、自治会、市民サークル等の草の根の情報化を支える「地域の世話人的役割」を果たす人材

地域の人々との交流や情報化のための機器の使い方指導等を通じて、地域の取組と連動した情報化を進められる人材

## ○退職する団塊世代の新たな生きがいとなるような、非金銭的インセンティブにも支えられた「やりの性格」を持つ人材

退職者が持っている知見や人間関係等を活かして、高年齢者層の多い社会を支えていくための人材

